

帝京大学医学部附属病院 多剤耐性アシネトバクター集団発生事例 (中間暫定報告)

院内感染対策中央会議

2010年10月21日

国立感染症研究所

感染症情報センター 八幡 裕一郎(yahata@nih.go.jp)

FETP 古宮伸洋、大平文人、阿部信次郎

調査目的

- 帝京大病院におけるMRAB陽性症例の集積について、積極的症例探索、全体像を把握すること
- 感染源・感染経路について推定すること
- 感染拡大防止および再発防止のために必要な対策に関して、帝京大病院、東京都、厚生労働省等に対して提言を行うこと

症例定義

「2009年5月1日から2010年9月30日の期間に、帝京大
病院に入院歴があり、第3入院病日以降の入院中の
培養検体からフルオロキノロン(シプロフロキサシンま
たはレボフロキサシン)、カルバペネム(イミペネムま
たはメロペネム)、アミカシンの3剤に耐性の
*A. baumannii*が初めて分離されたもの」

* 薬剤感受性試験について

帝京大病院のMRABの定義は厚生労働省院感染対策サーベイランス
(JANIS)の定義に準じている。Siemens社マイクロスキャンパネル6.12による
微量液体希釈法で行われており、その耐性基準は、レボフロキサシン
 $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、シプロフロキサシン $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、イミペネム $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、メロペネム
 $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、アミカシン $\geq 64\mu\text{g/ml}$ で判定されている。

今後の方針

1. 症例に関する情報収集等
2. 細菌検査データの収集、解析
3. 各関係者へのInterview
4. 症例対照研究